

9. 認知症の人の視点に立った認知症施策の推進について

認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進していくためには、認知症の人が各種施策の企画段階から参画し、その意見が制度に反映されることが求められている。また、昨年1月に策定された認知症施策推進総合戦略においては、「認知症の人やその家族の視点は、本戦略だけでなく、地方自治体レベルで認知症施策を企画・立案し、また、これを評価するに当たっても尊重されることが望ましい。」とされているところである。

これを踏まえ、今年度の老人保健健康増進等事業において、「認知症の人の視点を重視した実態調査及び認知症施策の企画・立案や評価に反映させるための方法論等に関する調査研究事業」を実施している。

本事業では認知症本人の生活実態調査のあり方や実施手法を明らかにするためのパイロット調査を実施しているが、調査にあたり本人一人ひとりが十分に語る事ができるための配慮や工夫として、事前準備の段階から認知症の人に参画してもらい認知症の人が本音を語りやすくなる人間関係を予め構築しておくこと、本人や行政を含めた関係者の間で調査目的を何度も確認・共有すること、こうした場作りに行政が継続的に関与すること等が重要であると改めて確認されており、今後、本人視点の取組を展開するにあたっては、積極的な関与をお願いしたい。

なお、本事業の研究成果については報告書として取り纏め今後公表される予定のため、各都道府県及び市町村におかれては、推進員を活用する等して、本人・家族視点を重視して認知症施策を推進していく際の参考とされたい。